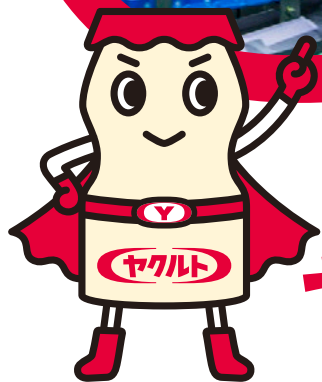




ヤクルト CSRコミュニケーションブック 2021

人も地球も健康に
Yakult

ごあいさつ

人々の価値観、生活が
大きく変化した今だからこそ、
お客さまと社会のためにヤクルトが
できることに取り組んでいきます

株式会社ヤクルト本社
代表取締役社長

成田 裕

2021年6月、ヤクルトグループは、経営ビジョン「Yakult Group Global Vision 2030」を策定しました。「世界の一人でも多くの人々に健康をお届けする」「一人ひとりに合わせた『新しい価値』をお客さまへ提供する」「人と地球の共生社会を実現する」を目標に掲げ、「世界の人々の健康に貢献し続けるヘルスケアカンパニーへの進化」を目指していくものです。

気候変動問題をはじめとした社会課題がますます深刻化していく中、この3つの目標を達成していくために、SDGs(持続可能な開発目標)貢献の観点に基づき、サステナビリティを高めるための「6つのマテリアリティ(重要課題)」を特定しました。同時に、人と地球の共生社会を目指す「ヤクルトグループ環境ビジョン」を策定し、2050年までにバリューチェーンでの温室効果



ガス排出量ネットゼロ(スコープ1・2・3)を目指して地球環境保全にも実効性ある取り組みを推進していきます。▶ P.4

またヤクルトグループは、国際的な枠組みである「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」に署名しました。UNGCの10原則を支持し、持続可能な社会の実現に向けステークホルダーの皆さまと連携しながら、サステナビリティへの取り組みをさらに高めていきます。

2020年初頭に始まった新型コロナウイルス感染症の流行は、さまざまな変化をもたらしました。この厳しい環境下でも、皆さまに「健康」をお届けし続けることがヤクルトの存在意義であることを再認識し、お客さまと社会のためにヤクルトグループができることに取り組んでいます。

コーポレートスローガン

人も地球も健康に

コーポレートスローガンに込めた想い

人が健康であるためには、人だけではなく
周りのものすべてが健康でなければなりません。

ヤクルトは、水、土壌、空気、動物、植物、

そして人々が織り成す社会、

これらすべてが健康であって初めて、

人は健康的に生活できるのであり、

健全な社会が築かれるのだと考えています。



このコミュニケーションブックは、ヤクルトの取り組みについてわかりやすくまとめたものです。
詳しい情報やデータについては、右記のサイトをご覧ください。

ヤクルトのCSR

<https://www.yakult.co.jp/csr/>



ヤクルトの企業・IR情報

<https://www.yakult.co.jp/company/>



ヤクルトの社会へのインパクト

ヤクルトグループは、事業活動を通じて社会に対してさまざまなインパクト(影響)を与えています。ポジティブなインパクトを最大化し、ネガティブなインパクトを最小化するために、ヤクルトグループは「気候変動」「プラスチック容器包装」「水」「イノベーション」「地域社会との共生」「サプライチェーンマネジメント」の6つのマテリアリティ(重要課題)に取り組んでいます。

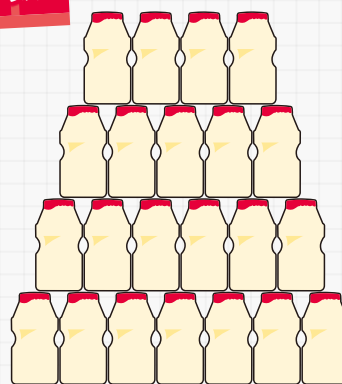
ヤクルトの乳製品が1日に飲まれている本数

4,000 万本以上

2021年3月期



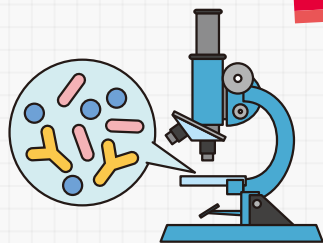
「ヤクルト」は世界中で
たくさんの人に
飲まれているんだね!



イノベーション

ヤクルトの国内外の特許保有件数

約 **1,000** 件

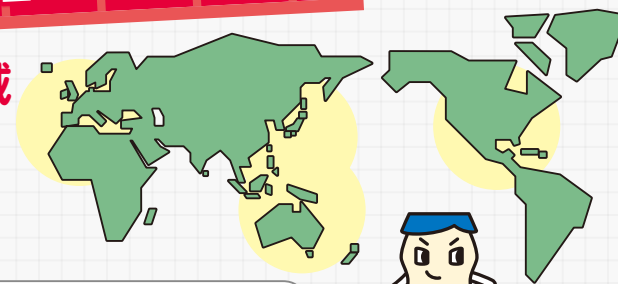


研究・開発の地道な努力が
成果として表れた数字だね!

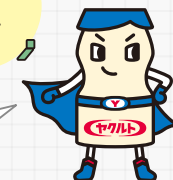
ヤクルトが進出している国・地域と販売対象人口

世界40の国・地域

約 **24** 億人



日本を含むアジア・オセアニア、
米州、欧州に広がっているよ!



地域社会との共生

愛の訪問活動でヤクルトレディが
お宅を訪問している 高齢者数

約 **36,000** 人

数値は2020年度実績



ヤクルトレディが商品をお届けし
ながら、一人暮らしの高齢者の
安否を確認したり、お話し相手にな
るという活動を推進しているよ。

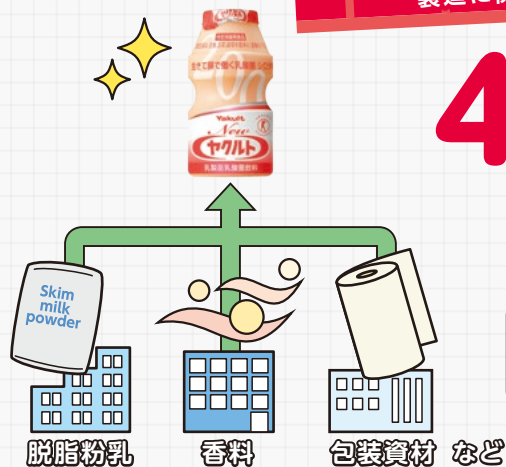


サプライチェーンマネジメント

「Newヤクルト」の製造に関わる一次サプライヤー

45社

一次サプライヤーが商社の場合は二次サプライヤーを含む



サプライチェーン全体で社会・環境に与える影響について考えているよ。



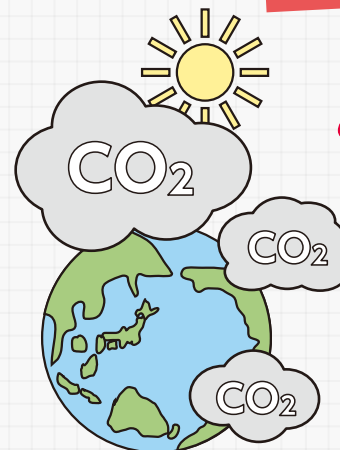
気候変動

温室効果ガス

384,930 t

2020年度

ヤクルト本社(物流含む)、生産子会社5社、国内スコープ1・2・3の合計値



2050年までに温室効果ガス排出量ネットゼロ(スコープ1・2・3)を目指すよ!

プラスチック容器包装

プラスチック使用量

12,237 t

2020年度日本国内



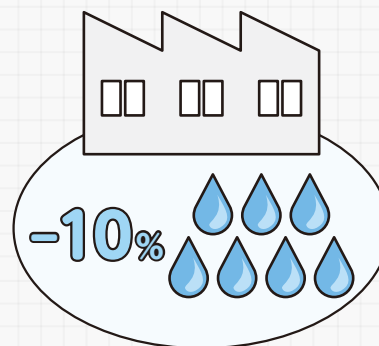
プラスチック製容器包装の資源循環を推進!

水

水使用量

6,172 千t

国内外の生産拠点/数値は2020年度実績



水は大切な資源。2030年には、水使用量(国内乳製品工場:生産原単位、2018年度対比)10%削減を目指すよ!

ヤクルトグループのマテリアリティ

気候変動



ヤクルトのアプローチ

人の経済活動による気候変動の問題は、ヤクルトグループの事業を継続するうえで、重要な課題と認識しています。脱炭素社会の実現が求められる中において、ヤクルトグループとして定量目標を定め、さらなる省エネ推進や再生可能エネルギーの積極的導入等を行うことで、温室効果ガス排出量を削減します。

温室効果ガス排出量削減に、積極的に取り組んでいるよ！



貢献するSDGs

13

気候変動に具体的な対策を



17

パートナーシップで目標を達成しよう



2021年3月、 「ヤクルトグループ環境ビジョン」を 決めました

世界では、気候変動問題をはじめ、さまざまな環境問題が深刻化しています。日本を含め世界40の国と地域で事業を展開するヤクルトグループは、地球環境にマイナスとなる影響を減らし、プラスの影響を与える取り組みを推進していくために、2021年3月、人と地球の共生社会を目指す「ヤクルトグループ環境ビジョン」を策定しました。

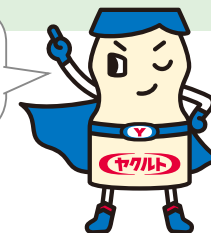
CO₂削減、 本社工場・ボトリング会社、 販売会社でも進めています

本社工場やボトリング会社では、照明のLED化、設備や生産システムの効率化、太陽光発電の活用等でCO₂削減を推進しています。また、製品貯蔵タンク用冷却水の供給ポンプを間欠的な運転方法に変更することにより、電力使用量を削減し、CO₂を削減しました。

販売会社のヤクルトレディが使うお届け車両も、CO₂排出量削減を目的とした電気自動車(コムス)を導入しています。



人と地球が共生していくための
ビジョンを策定したよ。



**People and
Planet as One**
ヤクルトグループ環境ビジョン



岡山和気工場の
ソーラーパネル



電気自動車(コムス)



ヤクルトグループのマテリアリティ

プラスチック容器包装



ヤクルトのアプローチ

ヤクルトグループでは、プラスチックごみによる環境汚染や資源のリサイクルに関する社会問題に対し、環境配慮型容器包装の基礎技術の確立を目指しています。資源循環しやすい素材への転換を進めながら、プラスチック製容器包装による環境負荷の低減を図ります。

環境に配慮した容器包装素材への転換に積極的に取り組んでいるよ。



貢献するSDGs

12 つくる責任
つかう責任



17 パートナリシップで
目標を達成しよう



容器包装による環境負荷の低減に取り組みます

ヤクルトグループは、2019年1月に「プラスチック資源循環アクション宣言」を発表しました。資源循環できる容器包装への転換や容器包装の素材変更による環境負荷低減等の具体的な取り組みを進めています。

バイオマス素材を活用します



2020年10月に「ヤクルトのはっ酵豆乳」において、バイオマスプラスチックを使用したストローおよびマルチシュリンクフィルムへの切り替えを行いました。ヨーロッパヤクルトでも、プラスチック包装からカートン包装への切り替えを進めるなど、再生可能な生物由来の有機性資源であるバイオマス素材を活用し、さらなる環境への配慮を推進していきます。



カートン包装の使用範囲拡大

プラスチック資源循環アクション宣言(概要)

●ヤクルトグループは、プラスチック製容器包装の資源循環を推進する取り組みを行います。

—2025年目標—

環境配慮型容器包装の基礎技術を確認したうえで、資源循環しやすい素材(バイオマス素材、リサイクル素材、生物分解性素材等)への転換に着手します。

—2030年目標—

循環資源市場や環境インフラ等の外部環境の整備状況と連動しながら、資源循環しやすい素材へ最大限の転換を図ります。

●容器包装へのプラスチック使用量の削減や、生産工程で使用するプラスチック製梱包材の再使用等の取り組みについて、これまで以上に推進し、資源循環に向けた取り組みを積極的に進めていきます。

バイオマスプラスチックを使用していることをパッケージに記載



この商品のストローは、植物由来の原料を25%以上使用した、環境にやさしいバイオマスプラスチックでできています。

BD²⁵
バイオマスプラ
No.632
対象:ストロー

ヤクルトグループのマテリアリティ

水



ヤクルトのアプローチ

水は、地球上の限りある資源です。昨今、水需給の不均衡や水災害の発生等、水に関わる問題が地球規模で問題になっています。これは水を原材料とするヤクルトグループの事業活動にとって重要な課題です。ヤクルトグループでは、定量目標を定め、水使用量(原単位)の削減に向けて取り組むとともに、生産拠点の水リスクに対応する管理計画の策定を進め、水資源の保全および持続的利用を推進します。

水資源を守っていくよ!

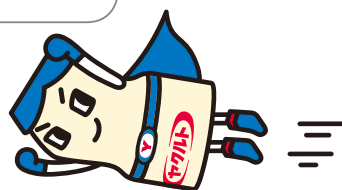
貢献するSDGs

6

安全な水とトイレを世界中に

17

パートナーシップで目標を達成しよう



水の“リスク管理”を進めています



持続可能な水使用のためには、各工場が水需給の見通し、水災害発生の可能性、公衆衛生、生態系への影響等の水リスクについて認識し、管理していく必要があります。そのため2017年から外部機関に委託し、WRI Aqueduct*等を用いて水ストレスレベル(水需給に余裕がない状態の程度)の評価を行っています。

※ WRI Aqueduct: 国際環境 NGO の世界資源研究所(WRI)が開発した水リスク評価ツール

生産拠点における水リスク評価結果(2020年度)

	拠点数	極めて高い	高い
国内	12	1	3
海外	27	9	7
サプライヤー拠点	372	35	77
合計	412	45	87

WRI Aqueduct水リスク評価結果(Future Projections/2040/Pessimistic)

ヤクルトの工場では、積極的に水を再利用

- **日本・福島工場**: 製品の生産に使用する純水の製造過程で発生した濃縮水を製品や機械の冷却水として再利用
- **メキシコ・イスタパルカ工場**: 排水処理場の処理水を工場の緑地へ散水
- **タイ・バンコク工場/アユタヤ工場**: 処理水をマイクロフィルターによって浄化し、トイレ用水やパレット・輸送車・排水設備の洗浄、植木や芝の散水に使用
- **中国・天津工場**: 排水オンラインモニタリングのシステムを、天津市生態環境局とネットワーキングし、汚水を排出

地下水のくみ上げ量の削減や、地域の環境に配慮して対策しているよ。



排水処理水を緑地への散水に利用
(メキシコヤクルト)



処理水を芝生の散水に使用
(タイヤクルト)

ヤクルトグループのマテリアリティ

イノベーション



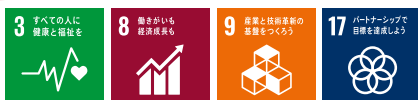
ヤクルトのアプローチ

ヤクルトグループが持続的成長を続けるために、これまで培ってきた生命科学の追究を基盤とした商品開発のさらなる推進や、新たな価値を提供するサービスの創出が必要不可欠だと認識しています。ステークホルダーの声を聴きながら、社会課題の解決に貢献するイノベーションを生み出し、ヘルスケアカンパニーへの進化につなげていきます。

新しい価値を提供していくよ!



貢献するSDGs



人の健康に有用な菌の研究を進めています

中央研究所は、予防医学の見地からの腸内フローラ研究と、人の健康の維持増進に役立つプロバイオティクス※の研究を活動の柱としています。日本および世界各地の人々の腸内細菌叢の違いや、疾病と腸内細菌叢の関わりなどを解明し、人々の健康づくりに役立てる研究を進めています。

その研究の一つとして、乳酸菌 シロタ株の継続飲用が一時的な精神的ストレスがかかる状況下での「ストレス緩和」「睡眠の質の向上」の機能を有することを確認し、1本(100ml)に乳酸菌 シロタ株を1,000億個含む乳製品乳酸菌飲料[Yakult(ヤクルト)1000]の商品化につながりました。

※ プロバイオティクス：十分量を摂取したときに宿主に有益な効果を与える生きた微生物(FAO/WHOによる定義。2002)のこと

ベトナム保健省
国立栄養研究所との
共同研究

ベトナム保健省国立栄養研究所との共同研究では、ベトナムの幼児を対象に「乳酸菌 シロタ株」を含む乳製品の継続飲用により、便秘および急性呼吸器感染症の発生抑制、下痢の発生が抑制される傾向を確認しました。この結果については、学術雑誌 *European Journal of Clinical Nutrition* (2020年9月28日掲載)に報告されています。



健康課題の解決に向けた研究活動に積極的に取り組んでいるよ。

ヤクルトグループのマテリアリティ

地域社会との共生



ヤクルトのアプローチ

ヤクルトグループは、「人も地球も健康に」のコーポレートスローガンのもと、地域と共生し、環境と調和しながら事業活動を継続することが重要だと認識しています。ヤクルトレディによる商品のお届けという独自の地域ネットワークも活かし、「安全・安心」な地域づくりに積極的に参加し、持続可能な社会の実現に向けて地域社会の発展に貢献していきます。

地域社会の発展に
貢献するよ!



貢献するSDGs



出前授業、健康教室

ヤクルトの社員が小学校等に出向き、腸の大切さや「いいんち」を出すための生活習慣について、わかりやすく説明する「出前授業」を行っています。大人向けには幅広いテーマで「健康教室」を開催しています。また、非対面・非接触でも健康情報の発信を継続するため、オンラインでの健康教室、出前授業の導入を予定しています。



出前授業（日本）

地域の見守り・防犯協力活動

ヤクルトレディは、担当地域に商品をお届けしながら、全国925の自治体、警察などと連携して地域の「見守り」や「安全・安心」への手伝いをしています。

また自動販売機では、自治体と協定を締結し、災害時に飲料を無料提供できる災害救援型自動販売機や、監視カメラ機能がついた自動販売機の設置で、地域の「安全・安心」に貢献しています。

群馬県高崎市設置の
災害救援型自動販売機

「安全・安心」な地域づくりに
積極的に参加してるよ!

高齢者の貧困に対する支援

ドイツヤクルトは、2020年2月から、デュッセルドルフの貧困に苦しむ高齢者をケアする地域コミュニティ「ヘルツヴェルグ」を支援しています。高齢者に配られる健康的な朝食の準備とスポンサーを務め、また、デジタルのクリスマスカード1枚送付につき、1ユーロを「ヘルツヴェルグ」に寄付しました。その寄付金は、イースターの高齢者向けプレゼントに使われました。



高齢者への
プレゼント
(ドイツヤクルト)



ヤクルトグループのマテリアリティ

サプライチェーンマネジメント

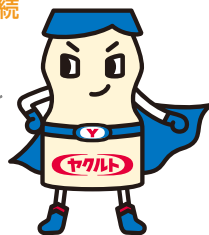


ヤクルトのアプローチ

ヤクルトにとってCSR調達の推進は、経営理念を実現するための重要課題です。「ヤクルトグループ CSR調達方針」のもと、サプライヤーの皆さまにヤクルトのCSR調達の考え方をより具体的にご理解いただくため目指す姿を明確化し、積極的なコミュニケーションを図ります。

環境・社会に与える影響への配慮やリスクの軽減によりサプライチェーン全体で社会の持続可能性を高めます。

サプライチェーン
全体で取り組むよ!



貢献するSDGs

サプライヤーとともに
推進するCSR調達

ヤクルトグループは、サプライヤーと連携・協力しながらサプライチェーン全体でCSR調達を推進しています。2020年7月に「ヤクルトグループ サプライヤーCSRガイドライン」を策定。2020年度も、アンケートや監査等を通じて取り組み状況を確認させていただき、問題が確認された際には改善に向け適切な対応を行い、社会の持続可能性を高めていくことを目指します。

現地で雇用・現地で調達し、
地域の発展に貢献します

ヤクルトは、事業を行う国や地域の持続可能な発展に貢献するために、当社の定める品質や安全性の基準をクリアし、安定的に調達できるものを使って現地で生産・販売する「現地主義」でグローバル事業を展開しています。

現在、海外29の事業所を中心に、日本を含む40の国と地域で事業を展開、地域に根差した生産・販売の拠点として事業所や工場を設け、現地社員を積極的に採用しています。

「現地主義」で
グローバル事業を展開!



CSR調達の基本方針

ヤクルトグループ CSR調達方針 (2018年3月策定)

ヤクルトグループは、人権、労働、環境、腐敗防止などにも配慮するCSR調達の重要性を認識し、取引先と連携・協力しながらサプライチェーン全体でCSR調達を推進します。

1 法令遵守と国際行動規範の尊重

各国・地域の法令遵守はもとより、国際行動規範を尊重し、公正・公平な調達活動を推進します。

2 人権・労働・安全衛生への配慮

児童労働・強制労働の排除および基本的人権を尊重し、労働環境や安全衛生に配慮した調達活動を推進します。

3 安全・安心と品質の確保

コスト・安定供給はもとより高い品質と安全性の確保をめざした調達活動を推進します。

4 地球環境への配慮

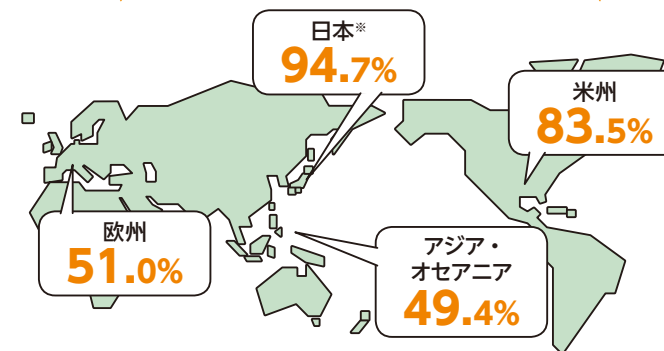
「ヤクルト環境基本方針」に準拠し、地球環境に配慮した調達活動を推進します。

5 情報セキュリティの保持

調達取引に関わる機密情報は厳重に管理し正当な目的以外に使用しません。

6 社会との共生

社会との共生に向けた社会貢献への取り組みに配慮した調達活動を推進します。

原材料の地元調達比率
(2020年度乳製品原材料における実績)

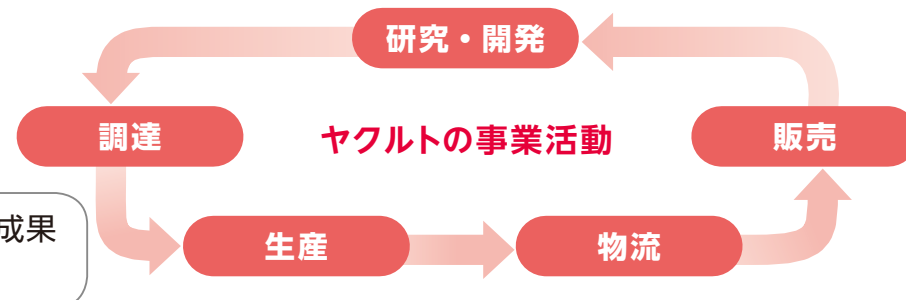
※ 海外から輸入し国内で最終加工している原材料は、国内調達として集計

ヤクルトの事業活動とSDGs

研究・開発から皆さまのお手元に商品が届くまで、事業活動を通じたSDGsの達成に貢献するさまざまな活動に取り組んでいます。

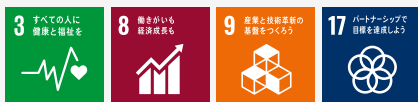


事業活動と成果
をご報告!



研究・開発

予防医学や健康長寿に貢献する研究開発に取り組み、研究成果を食品・医薬品・化粧品へと応用しています。

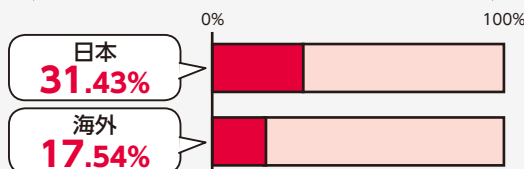


2020年度 Highlight

低糖、低カロリー商品も販売

- 海外で事業を展開する39の国・地域のうち、30の国・地域で低糖、低カロリー商品を販売

低カロリー商品 売上金額比率(2020年度)/



マレーシアの商品

調達

脱脂粉乳・砂糖・包装資材等の原材料を公正な取引を通じて調達しています。

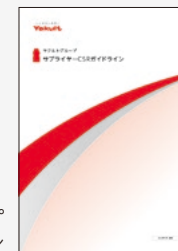


2020年度 Highlight

CSR調達方針の情報提供および教育を実施

- CSR調達研修会(合計2回)
- 外部有識者による講義やグループ討議

ヤクルトグループ
サプライヤーCSRガイドライン



CSR調達推進会議

生産

限りある資源を効率的に利用し、
お客さまに「安全・安心」で
高品質な商品を安定的に届けるため、
人にも環境にも配慮した
工場運営を行っています。



2020年度 Highlight

**運転時間を短縮し、
電力使用量を削減**

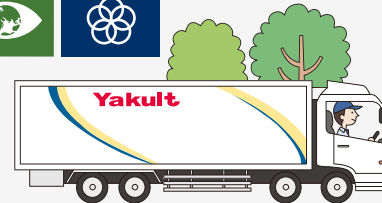
- 製品貯蔵タンク用冷却水を間欠的に供給するようポンプの運転方法を変更し電力使用量を削減
- ポンプ停止時間と製品温度の関連性について十分に検証を行う等、品質管理を徹底



福島工場冷却水ポンプ

物流

エコドライブを徹底し、
環境負荷が少ない輸送方法を選
択することで、商品輸送時の
CO₂ 排出量を削減しています。



2020年度 Highlight

**「グリーン経営認証」を継続取得、
持続的に環境負荷を低減**

- 乳製品をはじめとする食品や化粧品等の輸送を主に担う物流子会社の営業所単位で「グリーン経営認証※」を取得
- 「エネルギー消費原単位を5年度平均1%削減」を達成



※ グリーン経営認証：
公益財団法人交通エコロジー・モ
ビリティ財団が認証機関となり、
一定レベル以上の取り組みを行っ
ている事業所に対して審査のうえ、
認証・登録を行うもの

販売

商品とともに、商品の正しい知識や
健康に役立つ情報を
お客さまにお届けしています。



2020年度 Highlight

「食育推進企業・団体」に認定

- 健康情報をお届けする「出前授業」「健康教室」が食育活動として評価
- 一般社団法人日本食育学会「食育推進企業・団体」に認定

健康教室
(インドネシアヤクルト)

CSRストーリー 1

イノベーション



ヘルスケアカンパニーへの進化

「世界の一人でも多くの人々に健康をお届けする」「一人ひとりに合わせた『新しい価値』をお客さまへ提供する」「人と地球の共生社会を実現する」を目標とした、ヘルスケアカンパニーへの進化のためには、日々の研究開発による新しい価値創造が重要です。ヤクルトのイノベーションについてご説明します。

世界の一人でも多くの
人々に健康をお届けしたい



予防医学を基礎としたヤクルトの研究と商品開発のあゆみ

●「予防医学」の実践

ヤクルトの創始者で医学博士の代田 稔^{しろうた のり}は、病気にかかってから治療するという治療医学が主流の時代に、病気にかからないようにする「予防医学」という新しい視点で人々の健康の実現を目指し、微生物のもつ力に着目して研究の道に入りました。そこで、乳酸菌が腸内の悪い菌を抑えることを発見し、それを強化培養することにより、生きたまま腸に到達できるようにしました。それが、ヤクルトのイノベーションの原点「乳酸菌 シロタ株」です。

●「人々の健康を守りたい」という熱い想いを商品に込めて

代田は、栄養素を摂る腸を丈夫にすることが健康で長生きすることにつながる「健腸長寿」、「誰もが手に入れられる価格で」を提唱し、腸を守る「乳酸菌 シロタ株」を一人でも多くの人に、手軽に飲んでもらいたいと考えました。これが、乳酸菌飲料「ヤクルト」の開発につながったのです。

現代においても、代田の精神を受け継ぎ、乳酸菌の新たな研究成果を商品開発につなげ、世界の人々の健康に寄与する商品を創出しています。

研究と技術を融合した商品開発により、社会課題の解決に貢献

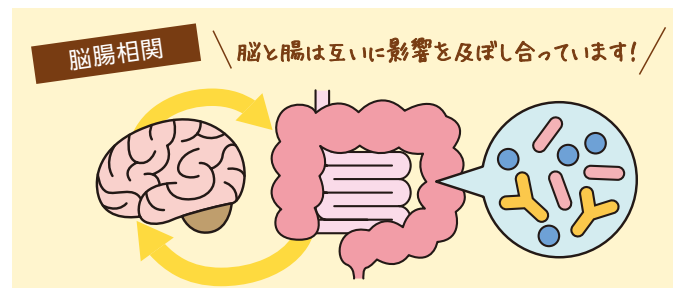
近年、世界の研究分野では、脳と腸が互いに影響し合う「脳腸相関」に、腸内細菌を加えて「脳-腸-微生物相関」の研究が進展しています。ヤクルトでも研究を進め、高密度、高菌数の「乳酸菌 シロタ株」を含む乳酸菌飲料の継続飲用が、一時的な精神的ストレス状況下において、ストレス緩和や睡眠の質を高めることを健常な医学部生で確認しました。

●「Yakult(ヤクルト)1000」の誕生

高密度・高菌数の乳酸菌飲料の商品化を実現するために、培養方法を新たに開発し、「乳酸菌 シロタ株」の増殖と製品保存中の菌数維持に最適な処方・培養条件を確立し、ヤクルト史上最高密度を実現しました。高密度の機能を保持したまま、「ヤクルト」らしい風味を維持しています。研究・開発担当の熱い想いがこもった「Yakult(ヤクルト)1000」は、2021年4月に全国発売されました。

ストレス社会といわれる現代は、メンタルヘルスケアが重要視されています。ヤクルトでは長年培ってきた研究や技術を活かし、社会課題の解決に貢献する新しい価値を今後も提供していきます。

乳酸菌の菌数の推移 (1mlあたり)

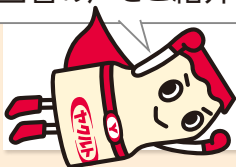


CSRストーリー 1

イノベーションの現場から

研究・開発・企画が連携し、新しい価値を創造する

担当者の声をご紹介します！

研究に関連するあらゆる
情報・人をコーディネート研究
中央研究所研究管理センター
研究企画課
課長
酒井 隆史ヤクルトのポテンシャルで、
オーダーメイドのプロバイオティクスを商品開発
開発部開発部
開発課
主事
太田 英樹メディカルケアという新領域で、
患者さんの期待に応えたい商品企画
企画室企画室
事業開発チーム
主事
西川 綾部署の垣根を越えて、
世界の人々の健康に貢献する

酒井：ヤクルトは、世界の人々の健康に貢献したいという想いを胸に、健康に関わる社会課題の解決を目指してきました。

太田：創始者で医学博士の代田 稔は、感染症で命を落とす子どもを救うため「予防医学」を実践しましたが、まさにそれは、社会課題解決のためのイノベーションだったと思います。そのベンチャースピリットを我々は受け継ぎ、さまざまなユーザーの多様化するニーズに応えるため、日々の研究、商品の企画・開発に努めています。

酒井：中央研究所は、乳酸菌などの微生物の研究を中心に基礎研究・応用研究を進めており、ヤクルトの製品・サービスのシーズを創り出すのが大きな役割です。

太田：研究所の研究成果を基にした商品開発や、容器包装等の技術開発、新素材の開発を行うのが開発部です。

西川：企画室では、ヤクルトのイノベーションのため、新たなサービスや新規事業化に向けた試みを実施しています。その中でメディカルバイオームグループでは、メディカル分野での社会課題解決に向けた新商品の企画立案や販路構築を行い、必要に応じて関係部署と連携し、ヤクルトの新しい価値を創り出す活動を行っています。

太田：お客さまの視点に立って、社会の役に立つ新しい価値を創造していくためには、部署横断の連携が今後ますます重要だと考えています。

植物由来の素材を利用した食品の創出

太田：ヤクルトの将来を考えたとき、企業の持続可能性を高めるためには、限りある資源を有効活用し、地球環境、動物への影響を最小限にしながら「人と地球の共生社会」を実現する事業活動が重要になると考えました。当社製品の原材料は、主に乳や植物に由来する自然資源を利用しています。環境保全や生物多様性への配慮と合わせて、新しい素材を探求する中で着目したのが植物由来の素材でした。

酒井：グアバ葉のポリフェノールを活かした「ヤクルト蓄爽麗茶」、豆乳を乳酸菌で発酵させて大豆イソフラボンを吸収しやすくした「ヤクルトのはっ酵豆乳」を商品化するなど、植物由来の素材については、今までも研究してきたベースがあります。それをより発展させて、環境問題への対応も含めた新しい価値の創出につなげていきたいと考えています。

太田：植物由来の素材と乳酸菌の融合により、新しい価値を生み出すことは、将来のヤクルトの事業にとって必要であり、新たなファンづくりにもつながるものと確信しています。そして、ひいては、世界中の人々の共通の願いである「健康」

を提供するという社会課題の解決にも寄与できると考えています。

メディカルケア&
ニュートリション事業への挑戦

西川：私が日々接している医療現場の先生方からは、高齢化にともなう医療費増大、抗生剤多用による耐性菌の問題などが聞こえてきます。そのような課題に対し、当社のリソースを活用した栄養補助食品で、貢献できることがあるのではないかと考えています。

酒井：中央研究所では、以前から共生菌と疾病との関連の研究を行っていました。それらの研究成果を医療現場の課題解決につなげていくことにより、新しい事業へと大きく発展していくものと期待しています。

西川：現在我々が扱っているのは食品ですので、副作用の心配がないのは利点です。医療関係者も患者さんへ安心してお勧めできますし、患者さんの治療のサポートとして役に立てるのではないかと考えています。今までのヤクルト製品のマーケットに加え、新たなメディカルケア&ニュートリション分野でも製品ラインアップを増やし期待に応えていきたいと思っています。

CSRストーリー 2

地域社会との共生



地域の皆さまに継続的に健康をお届けするために

ヤクルトグループでは、健康増進に役立つ商品販売だけでなく、健康や栄養に関連する情報をお客さまにお伝えしています。また自治体等とも連携し、地域の「安全・安心」を守る活動を推進しています。健康の大切さを改めて実感する社会においても、健康に寄与する商品、「安全・安心」をお届けする取り組みを行っています。



お客さま、従事者の安全のために

コロナ禍に際し、宅配で商品をお届けしているヤクルトレディは、お客さまに対して「お届けの可否」および「最適なお届け方法」を確認してからの訪問を徹底し、可能な限りお客さまの要望に沿うようにしています。お客さまの安全第一を徹底し、併せて従事者に対する最大限の健康配慮をするために、感染予防を徹底するガイドラインを作成し、出勤前の検温、手指・お届け資材の消毒、マスク着用、さらに除菌スプレーを携帯し、適宜使用するようにしています。

海外事業所での感染予防対策

海外では、地域により事情が異なりますが、法令を遵守するとともに、海外事業所によっては、感染予防に関するガイドラインを作成しています。お届けに際して、マスクの着用、手指消毒、密にならない心がけ等基本的な取り組みを徹底しています。



感染予防ガイドライン(タイ)
(日本語訳)ヤクルトレディとコロナ対策
①常時マスク着用 ②必ず手を洗う
③出勤前に検温 ④距離をとる
⑤販売資材を清潔にする
⑥体の具合が悪いときはすぐに仕事を休む

COVID-19対応の全体像(2020年2月～)

ヤクルト本社 新型コロナウイルス総合対策本部
(対策本部長：代表取締役社長)

基本的な考え方(日本・海外共通)

- 国内外のヤクルトグループ従事者とその家族、お客さまの安全確保を最優先する
- 各国・地域の行政・社会からの要請に基づいて活動し、法令を遵守し、地域社会との連携を通じて可能な範囲で事業継続を図る

日本

- 政府方針「緊急事態宣言下における食品の安定供給の確保」に基づき、お客さまへ安全に商品をお届けする

海外

- 各国・地域の行政に当社商品を「生活必需品」と認識してもらい、事業継続に向けて最大限努力する

お客さまニーズに合わせたお届け方法

日本では、インターネットでのヤクルト注文システム「ヤクルト届けてネット」「家族に届けてネット」で、保冷受箱でのお届けを選択すると、ご自身や離れて暮らす大切な方々が、ヤクルトレディと接触することなく、商品を受け取ることができます。

非対面、非接触によるお客さまとの交流

ヤクルト製品をご愛顧いただいているお客さま向けのウェブサイト「Yakult Base」では、腸内環境や乳酸菌に関する情報や季節に合わせた健康情報を発信しています。

他にも「ヤクルト届けて通信(twitter)」や健康情報誌「#よむヤクルト」等、乳製品だけでなく美容に関する情報等、外出自粛での生活が続くお客さまに、楽しみながら健康な生活づくりにお役立ていただける情報を提供しています。



現場のヤクルトレディから



／お客さまに寄り添ったサービスを心がけています／

自分自身の検温、マスク着用、手指消毒を徹底し、言葉は交わさず、短時間でお届けを完了するという、ガイドラインに沿った行動が基本となっています。対面に抵抗を感じる方には、保冷受箱でのお届けへの切り替え等もお勧めしています。

CSRストーリー 2

コロナ禍での感染防止を徹底した販売活動、愛の訪問活動

日本 A



愛の訪問活動*

コロナ禍で人との接触がはばかれる現状においても、一人暮らしの高齢者の安否確認は中止することができない命に関わる活動です。インターホンを通して声をかけたり、離れた場所から商品を取り込む姿を確認したりと、日本全国それぞれの地域で、感染防止に工夫を凝らしながら活動を継続しています。

※ ヤクルトレディが商品をお届けしながら、一人暮らしの高齢者の安否確認をしたり、話し相手になったりする活動

世界中のお客さまの健康な生活づくりに貢献するよ。



A

中国(広州) B



販売活動

商品お届け時や訪問する際には、必ずマスクを着用し、1メートル以上の距離を保っています。また、お支払い時に、お客さまに電子決済をお勧めし、現金の使用を極力さけるようにしています。

オフィスビル等管理が厳しい場所のお客さまに対しては、事前にSNS(WeChat)で連絡をとり、お渡し方法等について相談し、不必要な接触を減らすよう取り組んでいます。

社会貢献

PCR検査やワクチン接種を徹夜で行っている医療機関や政府部門に「ヤクルト」を寄贈しました。寄贈の際、医療従事者や政府関係者にプロバイオティクスの作用をお知らせし、地域の多くの方に「ヤクルト」の価値を伝えることができました。また、新型コロナウイルス感染者の受け入れをしている医療機構と政府各署へヤクルトを23.2万本贈呈しました。

医療機関や政府部門に
ヤクルトを寄贈



B

D

メキシコ C



販売活動

お客さまから「コロナ禍においても毎週必ず商品をお届けしてくれることに感謝します」とお言葉をいただきました。お届けの際に、マスク、フェイスシールド、手袋をつけて、都度アルコール消毒をしているのでヤクルトレディに対する信頼感が高まっているようです。ヤクルトレディがお客さまから商品代金を受け取った際、お金が濡れていたと尋ねたところ、「あなたが感染しないように、お金を消毒しておいたのよ」と。お客さまの感染予防意識の向上にも貢献できているようです。

社会貢献

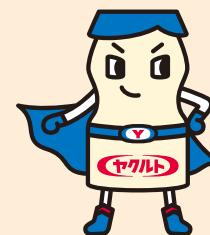
メキシコヤクルトでは、医療機関や高齢者施設、孤児院ほか、陸軍を通じて、恵まれない家庭等341か所479.3万本の商品提供を実施。また、グアダハラヤクルトでは、15の病院に87.7万本の商品提供を実施しました。病院や高齢者施設等各機関からお礼状やSNS上での感謝のメッセージが届きました。



ヤクルトを病院へ寄贈

C

「安全・安心」な活動ができるよう、徹底した感染防止対策をしているよ!



インドネシア D



販売活動

お客さまの中には、人が集まる場所へ買い物に出かけることを不安に思っている方もいます。顔見知りであるヤクルトレディが、感染防止対策をしっかりとうえて定時定日訪問をしてヤクルトをお届けすることは、とても安心で助かりますと好評をいただいています。

また、多くのスーパーマーケットでは新型コロナウイルス感染症を心配して、来店されるお客さまが少なくなりました。そうした中で、ヤクルトのセールス・プロモーション・ガールは、感染防止対策を徹底し、活動の時間を短縮しながら、お客さまへ「ヤクルト」の商品説明を実施して、健康に寄与する商品の理解を促進しています。



感染防止対策を徹底して
お届けしています

CSRストーリー 3

サプライチェーンマネジメント



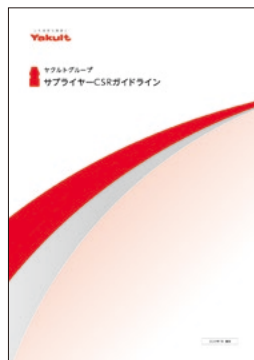
責任ある原材料調達の実現のために

ヤクルトグループのサプライヤーの皆さまと協働して取り組む「CSR調達の推進」は、健康に役立つ商品の生産・販売や、持続可能な社会づくりに貢献するさまざまな活動を支える重要なテーマです。

サプライヤーの皆さまと積極的なコミュニケーション活動を行い、サプライチェーン全体で社会・環境に与える影響への配慮やリスクの軽減を行い、社会の持続可能性を高めていきます。

「ヤクルトグループ サプライヤーCSRガイドライン」

持続可能な社会づくりに貢献し、責任ある調達活動を行うために、ヤクルトグループでは「CSR調達方針」を定めています。さらに、実効性をもってCSR調達を推進するため、2020年7月に「ヤクルトグループ サプライヤーCSRガイドライン」を策定しました。新規取引を開始する場合を含めた国内外すべてのサプライヤーに対して、責任ある調達活動に関する依頼事項をまとめたものです。ガイドライン記載の依頼事項については、アンケートなどを通じて取り組み状況を確認させていただき、問題が確認された際には改善に向け適切な対応を行います。



責任ある調達活動を推進するよ！



社内におけるCSR調達の意識啓発

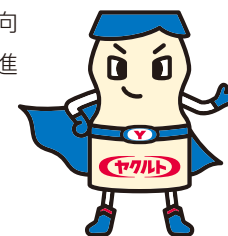
原材料調達や製造委託に関わる従業員に対して、CSR調達方針の趣旨や、持続可能な社会構築に向けた責任ある調達活動について、情報提供および教育を実施しています。

「CSR調達の推進に向けた勉強会」「CSR調達推進会議」「CSR調達研修会」を開催して、持続可能なサプライチェーンマネジメント構築に向けた各種施策の立案や実現を推進しています。



CSR調達推進会議

社内の意識向上が大事！



企業理念

私たちは、生命科学の追究を基盤として、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献します。

コーポレートスローガン
人も地球も健康に

CSR調達の基本方針

ヤクルトグループ CSR調達方針

ヤクルトグループは、人権・労働・環境、腐敗防止などにも配慮するCSR調達の重要性を認識し、取引先と連携・協力しながらサプライチェーン全体でCSR調達を推進します。

- 1 法令遵守と国際行動規範の尊重
- 2 人権・労働・安全衛生への配慮
- 3 安全・安心と品質の確保
- 4 地球環境への配慮
- 5 情報セキュリティの保持
- 6 社会との共生

サプライヤーの皆さまへの
お願いごと

サプライヤー
CSRガイドライン

環境・社会に与える影響への配慮やリスクの軽減によりサプライチェーン全体で社会の持続可能性を高めます。

CSRストーリー 3

サプライチェーンマネジメント

ヤクルト商品の製造に関わるサプライヤーとの連携

「Newヤクルト」をつくるには

「Newヤクルト」は、生きて腸内まで到達し、腸内環境を改善する「乳酸菌 シロタ株」を、1本(65ml)に200億個含んだ乳製品乳酸菌飲料です。「Newヤクルト」の原材料である脱脂粉乳、糖類、香料、包装資材などを供給していただいているサプライヤーの皆さまに支えられて、製造しています。

※ 一次サプライヤー数（一次サプライヤーが商社の場合には二次サプライヤーも含まれます。）

内容液

- ぶどう糖果糖液糖
- 砂糖
- 脱脂粉乳
- 香料

キャップ

- アルミニウム

容器

- ポリスチレン

「Newヤクルト」製造に関わる
サプライヤー

45社

多くのサプライヤーに支えられてできているんだ！



ヤクルトとサプライヤーとの連携

乳製品原材料の安定調達のために

- 主要原材料は、複数社からの購買を推進し、調達リスクを分散
- 各製品の販売傾向や原材料調達のリードタイム等を考慮し各原材料の適正な在庫を管理
- 一部原材料においては、サプライヤーと年間数量確保の契約を締結



CSR調達アンケートの実施

- CSR調達方針に基づき、環境、人権、労働、安全衛生、腐敗防止等のリスクを洗い出す
- アンケート結果は各社にフィードバックし、CSRの意識を高め、CSR調達に関わる取り組みの改善を促進



サプライヤーへの方針説明会

- サプライヤーの皆さまに対して、当社方針を説明し、共通の課題認識をもってCSR調達を推進していくために、サプライヤー向け方針説明会を開催、約400人が参加(2021年10月)

取引先選定基準

- 新規サプライヤーの選定においては、品質水準に合わせて社会・環境課題への対応内容について明確な基準を設定
- 品質調査の実施：「安全・安心」で高品質な製品製造のために、製品と品質管理の仕組みについて、製造委託先を定期的に調査



サプライヤー様から



大倉工業株式会社
豊富 裕介 様

環境問題を最重要課題として取り組みます /

ヤクルト用マルチシュリンクフィルムをはじめ、各種プラスチックフィルムをご採用いただいております。弊社においては昨今のプラスチックに係る環境問題への対応はフィルムメーカーとして最重要課題と認識しております。

ヤクルト本社様とは環境負荷低減を中心に取り組み、「ミルミル類」集積用シュリンクフィルムでは約8%のプラスチック使用量を削減、昨年から「はっ酵豆乳」用マルチシュリンクフィルムではバイオマス化の開発・市場投入を行いました。

今後も「ヤクルトグループ環境ビジョン」達成に向け、ともに開発を進めてまいります。

ヤクルト本社調達部担当者より



ヤクルト本社
調達部
森田 誠

バリューチェーン環境負荷ゼロ経営に向けて /

大倉工業様には、当社乳製品および清涼飲料向けのさまざまなプラスチックフィルムを供給していただいております。当社の環境問題におけるマテリアリティ(重要課題)の一つである「プラスチック容器包装」の分野では、多大なご協力をいただいております。

「ヤクルトグループ環境ビジョン」を達成するには、大倉工業様をはじめ、サプライヤーの皆さまのご協力が不可欠です。引き続きよろしくお願いいたします！



株式会社ヤクルト本社

〒105-8660 東京都港区海岸1丁目10番30号

お問い合わせ先 広報室 CSR推進室 TEL(03)6625-8960(代表)
FAX(03)6747-8009

ウェブサイトアドレス <https://www.yakult.co.jp>

公開 2021年 10月

次回公開予定 2022年 10月



ヤクルトCSRレポート
2021は上記QRコード
からご覧いただけます。